
赤色の矛盾

舞阪明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤色の矛盾

【Nコード】

N4502C

【作者名】

舞阪明

【あらすじ】

街が突然真っ赤に染まった。とり残された「俺」が選んだ道とは

失踪

やけに鮮やかな赤だった。血よりは少し明るくて、目がチカチカしたからできるだけ見ないようにしやがみこんだことを覚えている。「君、どうしたの？」

親切なおばさんは無視した。絡んでくるうつとらしい奴らからは逃げた。すべてから目をそむけて逃げるしかなかったからだ。自分がその時まで十歳にもなっていなかったことなんて、関係ない。とにかく、その赤い街から逃げることにしか頭になかったんだろ。

俺が街の異常に気付いたのはそれより数日前だった。壁はべつとりとした赤いペンキで塗られていて、家の中全てが真っ赤に染まっていた。そして異様な静けさが辺りを包んでいた。

「母さん？」

既にそこに母さんはいなくて、俺はたった一人で家にとり残されていた。朝ごはんは用意してあったけれど、味噌汁からもご飯からも、気分が悪くなるような臭いがした。赤くはなかったけど、母さんがいないのは不安なので手をつけないことにした。

「母さん」

寝室を覗いてみても誰もいない。父親はもとと家にはあまり帰ってこなかったからいるわけないのはわかっていたけど、やっぱり誰もいないのは不安で仕方ない。他にもお風呂やキッチン、外の物置周辺まで調べたけど誰もいない。自分一人だけ勝手に置いて行かれたのは初めてだったから本当に困った。

仕方ないから外に出ることにした。もしかしたらどこか知り合いの家にでも行ったのかと思ったからだ。でも、目を半開きにして玄関のドアを開けた瞬間、その望みは潰えた。

もう、街全体が手遅れだった

……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4502c/>

赤色の矛盾

2011年1月19日23時50分発行